

協同の力で誰もが輝く未来を創る

協同労働の協同組合
日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会

開催日時

11月14・15日

14日（土） 12:30~17:00 | 15日（日） 10:00~15:00

テーマ

労働者協同組合法制化時代
1人ひとりが社会をつくる主体者に
～本当の話し合い、仲間との本物の関係づくりをみんなで深め合おう～



交流協同労働実践 全国集会

Web会議 (Zoom)

※参加形式は招待制のWeb会議になっています。
お申し込み方法は裏面をご覧ください。

開催概要

11月14日12:30~17:00 全体会

提起/パネルディスカッション1回目/2回目

テーマ

深めあおう！本物の
話し合い・協同の関係づくり

11月15日10:00~15:00 分散会

報告+グループ討論

コメンテーター



大高研道
Otaka Kendo

明治大学政治経済学部教授。専門は協同組合学、地域社会教育学。日本社会教育学会常任理事、日本協同組合学会前副会長、協同総合研究所副理事長。日本のロッテデールと称される鶴岡生協（現生活協同組合共立社）のある山形県鶴岡市で育ち、ワーカーズとは千葉県芝山を拠点にスタートした若者自立塾との出会いから本格的に実践との交流が始まる。以来、北海道から九州にいたる全国各地のワーカーズから学び、人間らしい暮らしと仕事の創造者としてのワーカーズコープに大きな期待を寄せる。ワーカーズコープに関する著書・論文としては、『協同の発見』誌をはじめ、『地域学習の創造』（東洋館出版社、2015）、『社会教育としてのESD』（東洋館出版社、2015）、『開う社会的企業』（勤草書房、2013）、『労働の場のエンパワメント』（東洋館出版社、2013）など多数。



嘉村賢州
Yoshimura Kenshu

場つくりの専門集団 NPO 法人「場とつながりラボ home' svj」代表理事。コクリ！プロジェクトディレクター（研究・実証実験）。京都市未来まちづくり100人委員会元運営事務局長。集団から大規模組織にいたるまで、人が集うときに生まれる対立・しがらみを化学反応にかえるための知恵を研究・実践。研究領域は紛争解決の技術、心理学、脳科学、先住民の教えなど多岐にわたり、国内外問わず研究を続けている。実践現場は、まちづくりや教育などの非営利分野や、営利組織における組織開発やイノベーション支援など、分野を問わず展開しファシリテーターとして年に100回以上のワークショップを行っている。2015年に1年間、仕事を休み世界を放す。その中で新しい組織論の概念「ティール組織」と出会い、日本で組織や社会の進化をテーマに実践型の学びコミュニティ「オグラボ (ORGLAB)」を設立、現在に至る。

全国集会について



法制化時代、一人ひとりが社会をつくる主体者に ～本当の話し合い、仲間との本物の関係づくりをみんなで深め合おう～

気候危機やコロナ危機など、世界中が歴史的な危機に直面する中で、労働者協同組合法が国会に提出され、40年以上にわたる日本のワーカーズコープ運動の歴史的転換の時を迎えている。協同労働の法制化に関する与党ワーキングチーム座長の田村憲久議員が、「この働き方は、労働者の願いや理想を実現できる働き方だ。今の社会で自分がこうありたい！と思うことを実現しようとしたら、お金も知恵も力も互いに出し合って、自分たちでつくっていくしかない。それができる人間にとって理想の働き方だ。この法律ができることは、市民が地域づくりに向

かう上で有効なツールを手にできる。この法律が社会に出た時に、社会がどう変わっていくのかがとっても楽しみだ」との期待を表明されている。このように現場の実践が国会議員の心を動かす力となり、だからこそ今、私たち協同労働を自分の実感ある言葉として発信することが求められている。これまでの自分たちの取り組みをふり振り返り、苦勞の経験の中からどのように話し合いや仲間との関係性が深まってきたのか、あるいは今も悩んでいるのか。そこでつくんだ実感や教訓は何だったのかをふり振り返り、言葉にし、本集会で大いに交流し合おう。

この集会で一番議論をしたいことは何か

労働者協同組合法案の第1条には、「持続可能で活力ある地域社会の実現に資すること」が法の目的として掲げられた。そして、「①出資 ②組合員の意見反映 ③従事」の3原則が、労働者協同組合に欠かせない基本原理として位置付けられた。法律に位置付くということは、法施行の時点から当然のなすべき水準として求められることになる。私たちが、この間よい仕事の中心テーマに据えてとり組んできたことは、生命を大事にする生活と地域の創造だ。そこに本格的に向かっていくために、自分たちで考え、互いの意見を受けとめ合い、自分たちで決

めて実践していく—この意見反映原則を、どこまで深められるのかが問われている。その一番の確信点は、一人ひとりの存在を大切に、違いや多様性を認めあい、互いの力を生かしあう、働く仲間同士の協同の関係づくりがどこまでできているのか、人のつながりや人の結びつき、何よりも本当の話し合いをどこまで深められるのかにある。ここを、法制化直前の協同労働の全国実践交流集会で深め合う最大のテーマに据えたい。



労働者協同組合とは？

協同労働とは「共に生き、共に働く社会をめざして、市民が協同・連帯して、人と地域に必要な仕事をおこし、よい仕事をし、地域社会の主体者になる働き方」(ワーカーズコープ「原則」より)。ワーカーズコープでは労働者協同組合を「協同労働の協同組合」と位置づけ、働く人や市民が協同で出資して組合員となり、事業の運営に一人一票の決定権で参加して、地域と生活の必要に応える仕事を協同でおこす協同組合としてます。

必要な仕事、やってみいたいこと、改善が必要なこと等を組合員で話し合っ決めて、立場に関係なく、仕事を担い合います。もちろん事業を継続するためには利益を得られるように務めます。しかし私たちが求めるものは、共に働く組合員が自分

らしく働けること。そして「働くこと」を通して地域を元気にすること。

組合員も地域に暮らす市民です。市民の力によりよい暮らし・地域づくりを目指しています。



お問い合わせ

日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル7階

TEL 03-6907-8040 FAX 03-6907-8041

EML rngukism@roukyou.gr.jp URL http://www.roukyou.gr.jp/

協同の力で誰もが輝く未来を創る

協同労働の協同組合
日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会

